

各関係機関 御中

石川県農林総合研究センター所長
(公印省略)

病虫害発生予察情報について

令和7年度病虫害発生予報第8号を下記のとおり送付します。

連絡先	石川県農林総合研究センター 中央普及支援センター 病虫害防除室 電話 076-257-6972 (直通) FAX 076-257-9140 E-mail kisk0301@pref.ishikawa.lg.jp
-----	---

病虫害発生予報第8号

(予報期間：3月上旬～4月中旬)

予報内容

水 稲

- ・ **ばか苗病、もみ枯細菌病(苗腐敗症)、褐条病、苗立枯細菌病**の発生は、**平年並**と予想される。種子や育苗資材の消毒と播種時の防除を徹底する。種子予措から育苗期間中の温度管理、水管理を適正に行う。
なお、育苗にため池や河川水を利用する場合は、苗立枯細菌病の発生に留意する。

麦 類

- ・ **オオムギうどんこ病、雲形病、赤かび病**の発生は、**やや多**と予想される。発生が認められたほ場では、随時防除を実施する。

果 樹

- ・ **ナシ黒星病**の発生は、**多**と予想される。一次感染期である発芽後～5月下旬までの防除を徹底する。
- ・ **カキ炭疽病**の発生は、**多**と予想される。罹病枝は発生源となるので直ちに切り、ほ場から除去する。休眠期の防除を徹底する。

野菜・花き

- ・ **タマネギべと病**の発生は、**多**と予想される。早生種の発病に注意し、初期の防除を徹底する。
- ・ **トマトキバガ**の発生は**多**と予想される。発生を認めたらすぐに防除を行う。

※ 防除の実施に当たっては、最新の農薬使用基準を確認し、遵守する。 また、周辺作物への飛散防止対策を徹底する。
--

---気象予報---

1か月予報（令和8年2月26日付け 新潟地方気象台）

予報期間：2月28日～3月27日

[確率予報]

気 温	低い	20%	、	平年並	30%	、	高い	50%
降 水 量	少ない	30%	、	平年並	30%	、	多い	40%
日照時間	少ない	40%	、	平年並	30%	、	多い	30%

[概要]

暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。特に、期間のはじめは、気温がかなり高くなる見込みです。向こう1か月の降雪量は少ないでしょう。

- ・ 2月28日（土）～3月6日（金）
平年と同様に曇りや雨または雪の日が多いでしょう。
- ・ 3月7日（土）～3月13日（金）
平年と同様に曇りや雨または雪の日が多いでしょう。
- ・ 3月14日（土）～3月27日（金）
平年と同様に曇りや雨または雪の日が多いでしょう。

3か月予報（令和8年2月24日付け 新潟地方気象台）

寒気の影響を受けにくいため、向こう3か月の気温は平年並か高いでしょう。

注 1) 発生量は平年比。

2) (+) は病害虫の発生に好適な要因、(-) は不適要因、
(±) は好適・不適に関与しない要因を示す。

1 水稻の病害虫

苗立枯病 (ピシウム菌)

発生時期	育苗期
発生量	少
予報の根拠	(1) 前年の発生はやや少 (-) (2) 育苗期の気温は高い (-)
注意事項	(1) 育苗資材や施設の洗浄・消毒を励行する。 (2) 育苗期間中の温度管理、水管理を適正に行う。

苗いもち

発生時期	育苗期
発生量	少
予報の根拠	(1) 前年の穂いもちの発生はやや少 (-) (2) 育苗期の気温は高い (-)
注意事項	(1) 種子や育苗資材の消毒と播種時の防除を徹底する。 (2) 種子予措から育苗期間中の温度管理、水管理を適正に行う。

ばか苗病

発生時期	育苗期
発生量	並
予報の根拠	(1) 前年の発生はやや少 (-) (2) 育苗期の気温は高い (+)
注意事項	(1) 種子や育苗資材の消毒と播種時の防除を徹底する。 (2) 種子予措から育苗期間中の温度管理、水管理を適正に行う。

もみ枯細菌病(苗腐敗症)

発生時期	育苗期
発生量	並
予報の根拠	(1) 前年の発生はやや少 (-) (2) 育苗期の気温は高い (+)
注意事項	(1) 種子や育苗資材の消毒と播種時の防除を徹底する。 (2) 種子予措から育苗期間中の温度管理、水管理を適正に行う。

褐条病

発生時期	育苗期
発生量	並
予報の根拠	(1) 前年の発生は少 (-) (2) 育苗期の気温は高い (+)
注意事項	(1) 種子や育苗資材の消毒と播種時の防除を徹底する。 (2) 種子予措から育苗期間中の温度管理、水管理を適正に行う。

苗立枯細菌病

発生時期	育苗期
発生量	並
予報の根拠	(1) 前年の発生は少 (-)

- 注意事項
- (2) 育苗期の気温は高い (+)
 - (1) 種子や育苗資材の消毒と播種時の防除を徹底する。
 - (2) 種子予措から育苗期間中の温度管理、水管理を適正に行う。
 - (3) ため池や河川水を利用する場合は、発生に留意する。

2 麦類の病害虫

オオムギうどんこ病

- 発生時期 連続発生
発生量 やや多
予報の根拠 (1) 現在の発生は未確認 (±)
(2) 気温は高い (+)
注意事項 (1) 発生を認めたほ場では、随時防除を実施する。

オオムギ雲形病

- 発生時期 連続発生
発生量 やや多
予報の根拠 (1) 現在の発生は未確認 (±)
(2) 気温は高い (+)
注意事項 (1) 発生を認めたほ場では、茎立期の防除を徹底する。

オオムギ赤かび病

- 発生時期 出穂後
発生量 やや多
予報の根拠 (1) 前年の発生はやや少 (-)
(2) 気温は高い (+)
(3) 降水量は多い (+)
注意事項 (1) 出穂前後の降雨は発生を助長する。
(2) 出穂期の3～5日後とその7～10日後の2回防除を徹底する。

3 果樹の病害虫

ナシ黒星病

- 発生時期 感染期は発芽から
発生量 多
予報の根拠 (1) 気温は高い (+)
(2) 降水量は多い (+)
注意事項 (1) 一次感染期である発芽後～5月下旬までの防除を徹底する。

カキ炭疽病

- 発生時期 感染期は4月以降
発生量 多
予報の根拠 (1) 前年の発生は多 (+)
(2) 気温は高い (+)
(3) 降水量は多い (+)
注意事項 (1) 罹病枝は発生源となるので直ちに切り、ほ場から除去する。
(2) 休眠期の防除を徹底する。

4 野菜・花きの病害虫

タマネギベと病

- 発生時期 感染期は4月上旬
発生量 多
予報の根拠 (1) 気温は高い (+)
(2) 降水量は多い (+)
注意事項 (1) 早生種の発病に注意し、初期の防除を徹底する。

灰色かび病

- 発生時期 連続発生
発生量 やや少
予報の根拠 (1) 現在の発生は並 (±)
(2) 気温は高い (-)
注意事項 (1) 発生初期の防除を徹底する。
(2) ハウス内の換気に努める。

トマトキバガ

- 発生時期 連続発生
発生量 多
予報の根拠 (1) 去年の発生量は多 (+)
(2) 気温は高い (+)
注意事項 (1) 発生を認めたらすぐに防除を行う

ハダニ類

- 発生時期 連続発生
発生量 並
予報の根拠 (1) 現在の発生は少 (-)
(2) 気温は高い (+)
注意事項 (1) 抵抗性の発達を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

アブラムシ類

- 発生時期 連続発生
発生量 並
予報の根拠 (1) 現在の発生は少 (-)
(2) 気温は高い (+)
注意事項 (1) 抵抗性の発達を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。